

「理解得た」と思えぬ説明会

松江市上宇部尾町

梶田 勝 76歳

中国電力は島根原発3号機の適合性審査申請にあたり、立地自治体である松江市や島根県をはじめ、30キ圏内にある自治体の事前了解を得て、原子力規制委員会に対し申請書を提出した。

申請にあたり中電は、関係する自治体住民に説明会を7回開催し、360人に懇切丁寧な説明を

したとしているが、一部の地域と少人数相手の説明では、地域住民の理解が得られたとは到底言えず、形だけの実績づくりでは、と勘繰りたくなる。

今夏の異常な暑さはいや応なしに電力需要を高めた。しかしながら、猛暑日の続いたピーク時でも電力供給が逼迫する事態には至らなかった。2〜3年先に見込まれる2

号機の再稼働を考え合わせる、3号機の新規稼働にその必要性があるだろうか。

近年、地球規模で頻発する火山や地震は、7年前の東京電力福島第1原発事故の再来を連想し恐ろしくなる。

今を生きている私たちは、次世代に生きる人々のためにも、安心して暮らせる地球環境を守り続ける義務と責任を負わされて、いることを忘れてはならない。